チートの資格

九音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
チートの資格

【Ｎコード】
Ｎ７３６５Ｚ

【作者名】
九音

【あらすじ】
名前のない原作キャラへの憑依もの、チートな能力を生かせない彼はどう生きるのか

こんにちわ異世界（前書き）

ＨＤＤの奥にあった作品です。
ＨＵＮＴＥＲ×ＨＵＮＴＥＲが再開したので出してみました。

こんにちわ異世界

「あきらめろ、お前に強化系の戦い方はできない」

・・・なんでこんなことになったのか。

いまおれの目の前にいるのは【ＨＵＮＴＥＲ×ＨＵＮＴＥＲ】の主要人物の一人であるクラピカ。

本当になぜおれがここにいるのだろうか、

仕事帰りに一杯ひっかけて布団に入り目を覚ませば、こんにちわ異世界。

八歳児の体に憑依していた。当時はＨＵＮＴＥＲ×ＨＵＮＴＥＲの世界であることにも驚いていたが、

まさかクラピカの念の師匠に憑依していたと気づいたときは、その時以上に驚いた。

巡り巡って今この状況にあるわけだが、原作に関わるのはこれっきりにしてもらいたいのが本音だ。

この物語は、憑依者『エージ』の物語である。

ーーーーー１９７５年　エージが憑依者となる。

何故、どうして、疑問を持ては際限がない。

朝目を覚ませば見知らぬ家にいた。目を覚まし眼に入ったのは部屋の天井、俺はこんな場所は知らない。

知らないはずだ、でもしっている。体が覚えているとでもいえばいいのか。

俺には確かにこの家で過ごした記憶が存在している。

家族構成も憑依前と同じ顔、歳、疑問など持つはずもない。ただーー職業がハンターということ以外は。

この世界が、【ＨＵＮＴＥＲ×ＨＵＮＴＥＲ】の世界だと気づいたのは早かった。

共通語である文字が特徴だし親の職業もアレなわけで、

ここで生きていることには違いないのだし人間諦めが肝心である。

しばらくこの世界で過ごして気づいたのは、普通に生きていく分には比較的過ごしやすい世界でもあるということでる。

漫画の中で人が良く死ぬ光景が見られ危険な世界であるイメージが多いがそんなことはない。

天空闘技場、ハンター試験、ククルーマウンテン、ヨークシン、キメラアント

そんなものは世界の一部でしかない、世界にとっての危険な部分をたまたま見ていただけで

一般人の生活には一切関係しない。

そう、一般人として働いて、仕事について、結婚して、子供を育て、孫に囲まれて死ぬ。

そんな普通の生活ができる世界なのだ。

・・・・・親がハンターでなければな

親の愛が重い。そんな風に感じたのはこれが初めてだ。

お前にはハンターの素質がある。

その一言が始まりだった。

まず用意されたのは重り、両手足の五?ずつ用意されその日から俺

はひたすら走らされた。

格闘技など欠片も教わらなかった。ただただ走るだけ慣れてくると重りを増やされる。

十キロ、二十キロと日に日に増えていったがすることは変わらなかった。

日常生活においても外さずに生活した。

実に恐ろしきは富樫世界

体が環境に適応するのだ。現実にはありえないほどの学習能力を発揮している。

日に日に増やされる重りの数に対し、しっかりと適応し苦に感じなくなっている自分がいる。

見た目はただのパワーアンクルなのだが重さが増えているのに見た目が変わらない。

おそらくこれは念能力によるものなのだろう。

念の存在を教えられたのは思ったよりも早かった。といってもあくまで知らされたレベルではある。

【念能力】

念（ネン）とは、体からあふれ出すオーラとよばれる生命（精神）エネルギ

ーを

自在に操る能力のことである。

生命エネルギーは誰もが微量ながら放出しており、そのほとんどは垂れ流しの状態になっている。

現在この能力を一部でも使いこなせる者はごくわずかであり、

それゆえ「天才」「支配者」「超能力者」「仙人」「超人」などと呼ばれ特別視される。

一流のハンターはこの念能力を使いこなす、この能力により特殊な念装具を作り出すことも可能である。

念使えるようにするためには、瞑想や禅などで自分のオーラを感じとり、

体中をオーラが包んでいることを実感した上で少しずつ精孔を開いていくのが一般的である。

【念（ネン）の四大行】

念の基本的な習得段階のことである。

「纏」垂れ流しになっているオーラを肉体に留める

「練」通常以上のオーラを生み出す

「絶」精孔を閉じてオーラを絶つ技術。

「発」すごい必殺技

俺が教えられたのはこれだけ、しかも修行したのは纏だけで

他の技術については口頭で教えられただけという適当っぷり。他のはまだ俺には必要ないとのこと

しかし、原作知識のある俺にとってはそれだけでも十分だった。

念さえ身につけば重りに苦しむこともなくなる。そう思っていた時期が俺にもありました。

・・・・・・うちの親は一味違った。

身体能力が上がるなら今まで以上に重りをつけれるじゃないかという考え、

念を覚えていても体は鍛えられると言おう話である。

ちなみに今の重さは一つ5トン両手足で２０トンである。常識的にありえん。

そんなこんなで生活していき気づいた時には二年が経過していた。

今の俺はいったいどれだけの身体能力を手に入れているのだろうか。

両親はおれをハンターにさせる気でいるようだが

正直あんな試験を受けていたら命がいくらあっても足りない思う。

しかも俺は元ただのオタクでしかない。格闘漫画とか好きだけど殴るのも殴られるのも嫌だ。

喧嘩する根性なんかないし。ハンターとして冒険なんか無理無理。

それを薄々両親も感じているからこんな修行を両親は続けているんじゃないだろうか。

次の日の朝、目を覚めると俺は「発」を習得していた。

続く

こんにちわ異世界（後書き）

誹謗中傷はやめてね、でも指摘やアドバイスは大歓迎です。
批判されたら逃げまするー。

初めての念（前書き）

ジン＝フリークスが幽助にしか見えないんだけど。
俺だけじゃないよね！

初めての念

エージ１０才初めて「発」を覚えました。

【鉄の心】アイアンハート

己の精神力の底上げをし高みへもっていく能力。
能力発動中は恐怖、怒り、悲しみ、劣等感、それらのプレッシャーに耐えうる精神力を得ることができる。
わかりやすく言うとのび太君が範馬勇次郎になるくらいのレベル。
めっちゃやばい。でも性格変わります。
メモリ消費容量はかなり少なめ制約もない。
理由はあくまで心構えの問題でどうにでもなるから。
いらない人には本気でいらない能力。というかこの能力が必要な時点で負け組。

・・・・なんじゃこりゃあ、こんな能力ありえんのか？

目が覚めたら「発」が出来てるとか・・せめて自分で考えたかった。

精神の強化・・・強化系か操作系の能力っぽいな。

【念能力六性図】

念能力は６つのタイプに分けられる。

・強化系　　ものの持つ働きや力を強くする。

・変化系　　オーラの性質を変える。

・放出系　　オーラを飛ばす。

・操作系　　物質や生物を操る

・具現化系　　オーラを物質化する。

・特質系　　特殊なオーラ

ちなみに心源流に伝わる「水見式」という選別法がある。

グラスに水を入れ、その上に葉っぱなどを浮かべ「練」を行う。

その時の変化で自分の系統がどれに属しているかわかる。

んーせめて俺が「練」ができれば自分の系統もわかるんだけどなぁ。

まぁ出来ないもんはしょうがないか。

それによくよく考えれば俺にとってこの能力はかなり重要かもしれんしな。

ためしに修行中に使ってみたがかなり使い勝手がいい能力だった。

積極性というべきか何時もよりも修行に対しての倦怠感がない、

むしろ次の段階が待ち遠しいくらいに感じる。

そんな俺の様子を見てか、実際修行の量を増やさすと宣言されてしまったが

地力が上がるのはこちらとしても願ってもないことだ。

今後のためにも今は修行に集中するしかない。

ただ気になるのはハンター試験だな。

うちの両親は二年後、俺が１２歳になった時にハンター試験を受けさせるといっていた。

拒否はおそらく不可、受かる受からないは別として受検は確実にすることになる。

ならば今俺にできるのは残り二年で限界まで鍛えぬくことだけ。

正直時間が足りないがそんなことは言ってられない。

最低でも念（ネン）の四大行は確実にものにしたい。

生き残るために準備はできるだけしておきたいしな。

しかしそれを考えると基礎体力の修業だけじゃ心許ないのも事実。

他にも準備できることはしておくべきか。

実は気になることがもう一つある。

二年後の１９７９年２６７期ハンター試験といえば、

この世界の主人公の父親『ジン＝フリークス』が受検する試験である。

会いたくねえええええええええええええええ

絶対あったらろくなことにならないわ。

原作キャラに関われればそれだけ危険度も跳ね上がる。

受検時期をずらしてもらうか？いや、早めるのは危険だし遅くするのも説得は難しいか

やはり四大行だけじゃあ心許ない、本格的に発を考える必要があるな。

念能力は『覚悟』『身体能力』『精神力（オーラ）』に大きく影響を受ける。

【鉄の心】があるとはいえ覚悟の足りない俺に攻撃タイプの『発』は向かない。

作るなら守りに特化した能力にすべきだな。しかし、言うほど簡単にはいかないか。

念能力に必要なのはイメージ、絶対的な鎧何てものは到底作ることはできない。

だが限りなく近づけることはできるはず。

・・・・やっぱり難しいな、例え能力を作ったとしても能力の性能はオーラの量に左右される。

相手が自分より格上ならば、固い鎧を作ったとしても意味をなさない。

今急いで決める必要もないか・・・まず自分の系統の確認だな。

自分にあった能力を作らにゃ意味がないからな。

やるべきことが山積みだな、忙しくて俺死ぬんじゃないかこれ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7365z/

チートの資格

2011年12月26日01時05分発行